

こんにちは。歴史資料室の村上です。8月26日から新しい館内展示「いい湯だな・あおもり―市内の温泉・銭湯―」が始まりました（展示期間は9月30日まで）。

皆さんは日ごろ地域の温泉・銭湯を利用していますか？ 実は、総務省が行う家計調査によると、青森市は全国の都道府県庁所在市及び政令指定都市の中で最も「温泉・銭湯入浴料」の年間支出額が多い市です。その金額は全国平均が1,918円であるのに対し、青森市はなんと4,390円となっています（平成28年〈2016〉から平成30年の平均）。

さらに、令和2年（2020）8月18日付の『毎日新聞』によると、青森県は10万人あたりの公衆浴場数が23.7か所で全国最多となっています（全国平均は2.9か所）。また、青森県のホームページによれば温泉を利用した公衆浴場も多く、その数は274か所で全国第7位だそうです。このようなデータから、青森県は全国有数の温泉県といえるでしょう。

さて、今回の展示では市内の代表的な温泉地である酸ヶ湯温泉・浅虫温泉に関する歴史資料や、かつて戸山地区にあった戸山温泉の紹介、懐かしい下湯温泉の写真、昭和50年代の青森市の市街地を中心とした地域にあった公衆浴場を紹介する地図などを展示しています。



下湯温泉



青森温泉（戸山地区）

昭和50年代にあった公衆浴場を紹介する地図は『青森商工名鑑』（昭和53年度版、昭和58年度版）や当時の住宅地図を参考にしながら作成したものです。この地図を見ると、古川地区や旭町通り周辺など市の中心部にたくさんの公衆浴場があったことがわかります。中には戦前から営業している公衆浴場もありましたが、その多くは姿を消してしまいました。

『青森市統計書』などを用いて市内にある公衆浴場の数の変化を見てみると、昭和29年（1954）の38施設から徐々に増加し、平成元年には90施設となりましたが、その後は減少し、平成30年には59施設となっています。

全国的にも自宅風呂の普及や経営者の高齢化などによって公衆浴場の数は減少していますが、最近ではランニングなどの運動をした後に利用する人など、新たな利用者を獲得している施設もあるそうです。皆さんも地域の温泉・銭湯を利用してみませんか。

※今回の内容は「〈家計ミニトピックス〉「温泉・銭湯入浴料」の支出」（2019年 総務省統計局）、「浴場業の振興指針」（2020年 厚生労働省）などを参考にしています。